

# エルサレム会議

2022年11月13日

使徒の働き 15章1～29節 異邦人キリスト者（教会）  
ガラテヤ書 2章～ 律法と福音

序：ステパノの殉教 ～ パウロとバルナバの第一次伝道旅行  
成果：ユダヤ人だけでなく、異邦人にも信仰の門が開かれた  
問題：キリスト信仰が、ユダヤ教の一派とみなされるのか？  
世界規模の救いの福音と認知されるのか？  
初代教会初の教会会議は、教会史の大きな分水嶺

## I. エルサレム会議の発端 1～5節

(1)アンティオキア教会に、ユダヤからユダヤ人キリスト者たちが来た

エルサレム教会と関係  
ユダヤ教・パリサイ主義的色彩

異邦人キリスト者に、ユダヤ人キリスト者と同じようにするよう教えた  
モーセの律法に従い、割礼を受けなければ救われない  
割礼が救いの条件

(2)ユダヤ人キリスト者たち VS パウロ&バルナバ  
対立、論争 アンティオキア教会が二分

(3)エルサレムに上る  
アンティオキア教会の代表たちがエルサレム教会の使徒&長老たちと協議のため

(4)途上、フェニキア、サマリアの信者たちに異邦人の改宗を報告、大きな喜び

(5)エルサレム教会に迎えられ、異邦人伝道の報告 パリサイ派からキリスト者に成  
った者たちが、割礼と律法遵守を命じるべき、と主張

## II. 使徒たちと長老たち集合・会議 6～21節

(1)激しい論争 主題：救いのために割礼や律法の遵守は必要不可欠か？

(2)ペテロの意見

エルサレム教会の初期の頃、主はペテロを派遣して、ローマ人コルネリウスに  
福音を聴いて信じるようにされた。神は異邦人にも聖霊を与えた。割礼なしに  
信仰によりきよめてくださった。ユダヤ人たちは割礼や律法遵守で救われたの  
ではない。イエス・キリストの恵みによってユダヤ人も異邦人も救われた。  
ならば、異邦人キリスト者に、先祖たちも自分たちも負いきれなかつたくびき  
を負わずなどもってのほかだ。それは神を試みる罪である

(3)パウロとバルナバの話

神が彼らを通して、異邦人の間で行われた奇跡について証言

(4) (主の兄弟) ヤコブの調停・総括

①ペテロを支持

主は、異邦人の中からも、神の民として召す アモス書 9・11～12

②異邦人キリスト者に必要以上の重荷を負わせてはいけない（自由の保障）

③ユダヤ人キリスト者に対して、異邦人キリスト者にも最少限の配慮を求める  
規定を示す

①偶像に備えて汚れた物を食べない（肉を市場に売ったり、自分で食べる

②不品行（性的罪、姦淫、近親相姦）

③締め殺した物には血が残っているから食べない

旧約の在留異国人、ユダヤ教会堂に集っていた異邦人に課していたレベル

- (5)ヤコブの提示した折衷案によって、双方が相手に理解を示し、譲歩し合った使徒たち&長老たちも同意・支持
- (6)異邦人キリスト者に要請した基準は書面で書き送る、律法と同じく安息日ごとに会堂で朗読されることとなった

### III. 決議事項の通知

- (1)エルサレム教会からアンティオキア教会へ送る  
エルサレム教会から、バルサバ(ユダ)とシラスが選ばれ、パウロとバルナバに同行
- (2)書状の内容
  - ①異邦人キリスト者(教会)への挨拶  
お互い背景は異なるが、同じ主を信じている兄弟同士として
  - ②エルサレムからアンティオキアに行ったユダヤ主義キリスト者たちが、混乱と動揺をもたらしたことを耳にした(彼らは公認の使者ではない)
  - ③エルサレム教会から、公式にユダとシラスを送る → 決定事項を伝える  
バルナバとパウロに同行  
 ↓  
 エルサレムの聖徒にとっても、愛する兄弟  
 主イエスの御名のため、いのちをささげている献身者
  - ④聖霊と私たちは必要以上のどんな重荷もあなたがたに負わせない
  - ⑤最少限のこと(ユダヤ人が守っていること、在留外国人にも要請してきた3つの倫理規定を守る)のみを求める

### IV. エルサレム会議の結果

- (1)確認  
ユダヤ人信者 + 異邦人信者 = 新約の信仰共同体 = 教会  
律法あり                      律法なし  
行いによる救い

両者とも主イエスの恵み・信仰によって救われた  
 " 聖霊が与えられ、心がきよめられた  
 " 主にあつて兄弟、神の家族

- (2)教会内部の対立を解消 異端を防止
- (3)外に向かって、各々の特性を発揮した福音宣教の拡大(相互補完)
- (4)異邦人伝道に拍車、さらに大きな展開へと続く

### V. 結び

- (1)緊急事態に速やかに適切に対応
- (2)確固たる原則と現実的でしなやかな適用
- (3)対立関係の中で、一から十まで完全な一致というのは不可能  
互いに相手を理解・認識、譲歩できるところを探り、大筋での合意に至れば  
会議は成功